（十日夕刊）

磐城新聞

休刊　大祭日 第一 第三日曜
定價　一部二錢 一ヶ月六十錢 郵税十五錢
廣告料　壹行六十錢指定廿錢增
發行兼編輯印刷人　遠沼龍輔
福島縣平町田町十六番地
發行所　磐城新聞社
電話五六四番

美人詩抄（6）

赤井嶽男

（承前）借問す、女は安くにか居す。乃ち城の南端。青樓大路に臨みて高門重關を結ぶ、容華朝日に輝く。誰か令顔を希はざらん。媒氏、何の營む處ぞ。玉帛時に安からず佳人高義を慕ふ。賢良を求むる獨り難し、衆人徒らに囂々。安くんぞ知らん彼の觀る處を。盛年房室に處りて中夜起つて長歎す

請ひ問ふ、此の美人の住居は果して何れの地であるか。それは城の南端に在つて青樓大路に臨み門を高くし嚴そかな門扉を鎖し平常その內に起臥して世にも美しい姿を朝日に輝かしてゐる。噫、誰か美人を欲せざるものがあらうか（血の出る樣な金で三十分六十七錢のそれこそ本當の血税をさへ拂ふではないか）然るにこの美人にして尚ほ未だ嫁に行かないのは抑々何の故であらう。媒氏（男女の縁組を司る支那の舊官）の如き何を一たいボヤ〳〵して居るのであらうか、然り財貨を以て迎へんと欲するもの無いわけではないが美人の慕ふ處は寧ろ、玉帛（財貨）ではなくして高義の人である夫れ賢良を求むるは之ればかりは寔に面倒な事である惡太本太が如何にわい〳〵した處で何ぞ彼の女の肚の裡が解らうか、さればこそ可惜年頃の身を以て空しく房室に居り中宵獨り起きては時にままならぬ身の上を喞つ事があるのである

擲春心　李白

呉兒には白皙多し。好んで蕩舟の劇れを爲す、賣眼春心を擲ち、花を折つては行客を調す

呉（地名）の女兒は多くは色白で美人である。平常好んで蕩舟の戯れをなしよく扁舟に乘つて水草の間を行く。行く人その美なるを見うつとりして足を停めると吃度ふり返つて嬌として媚を呈し、意中思ふ處あるものの如くよく秋波の投げキツスを送る。時に或は水草の花を折つて以て之を行客に擲ち而して客に調して嬉々として樂む、その可憐實に云ふべからざるものがある、豈夫れ南町に於ける暗の女が上らぬうちはこんりんさい離さぬ樣な執拗さと比べものにならうか。商賈氣をはなれて斯う來られては男兒の鐵腸尚ほ今朝の雪の如く融けてしまうも無理からぬ事である

春溪游行

島田忠夫

昭和五年三月二十一日、春寒き川前附近の深流を探る。同行、磐女校の只野、佐藤、宍井、山口、武田、位田の諸先生と小生と七人許りなり

深みづは寒くとゞろきゐたれどもまんさく咲けり岩のかげにて
さむ風のいきほひ吹きしところ過ぎて深き峡みち水とゞろける
木火土金水と刻める石祠あり板圍ひには柴木つみかく
春山に椿の木の花ひそかにて細瀧川のかかりたる見ゆ
たにみづの幾曲りして落ちどよむ深青ぶちに春日さしつつ
何もみち素枯れのこれる向つ尾に山鶯のひとつなくこゑ
行きずりに藍の匂ひや幽かなれもんぺを穿きし山びととあふ
ひるの爐に煙いぶらぬおきとりて山鳥汁を煮てくるるなり
深がはは此處に開けて音すくなし爐のはたの自が聲に驚く
をみなの足いたはり下る山里に風呂湧く香して夕さびしけれ
禁獵期の山にわがため撃ちに入りし男は昏れて歸り來つらむ

拈華微笑

◇理外の理。この不景氣に連夜の宴會

◇教唆するぢやないが斯うなると默つてゐられぬが人情の常だ

◇この際飲むべし歌ふべし

◇但し同潤會邊りの資金游も考へてやる事

◇藝は身を助くる程の不仕合せ。惡代書うんと恥をかく

◇之もその手合か念佛行者モクチンでお陀佛

○——○

—（今月今日）—

△徳川賴宣薨ず、家康の子で紀州家の祖名君の聞えあり南龍公と稱す（寛永一一）△太陽暦公布半年を三百六十五日と定む（明治六）△サミエルコルト歿す、旋回銃の發明者米國人（紀元一、八八二）△シルレル生る、ゲーテと共に獨逸文壇の二天才（紀元一、七五九）△大隈侯薨去（大正一一）△朝鮮紡織爭議女工七百斷食同盟を決行（昭和五）

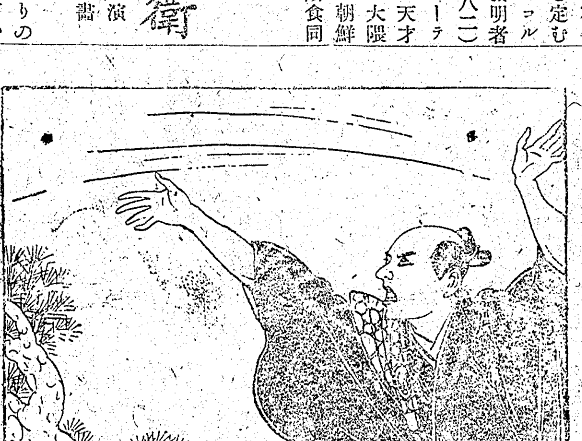
講談

赤鞘安兵衛

東京　桃川燕二演
村田月光畫

（一四三）

五萬石の頭でかみそりの柄をすげたものは此人ばかり……『痛い何と致した唯七』に聲がかゝつたのでハッと氣が付いた……『恐れ入りました、柄が少々緩みましから、おつむりを拜借してすけました』こんなのに拜借されては堪りません……『不都合なことを致す奴だ』とあつて三日間の遠慮を仰せ付けられと云ふ、先づ粗忽者の方では大關か横綱の格である人物、此外にも澤山の粗忽があつてかきつぼたの唯七なんと云ふ異名がある、此異名に就いても面白い話しがありますが餘事に渉るから申上げません、此唯七が一生懸命の試合の場合に淸水一角の後に伸びたり縮んだりしてゐる、諸士の心配は無理もない果して飛んだことを出かした、今一角が安兵衛から打込んだ……『お面ッ』の木劍を受流しながら……『まだ〳〵ッまだ〳〵ッ』と聲を掛けてゐる途端に、唯七……『ヤッ』と云ふと襟髪をムンズと掴んだ、力まかせにグーと後へ引寄せる安兵衛も……『是れは』と驚いて木劍を引いた、安兵衛の驚いたより一角は尚更驚いた、後に敵ありとは誰が思ひ掛やう……『ッ、何と致す』諸士一同も此亂暴に呆れて……『ワアッ、ワッ』と聲を上げた、安藝守樣內匠頭樣は眼を丸くして御しとねは其ッ方退けてお庭先までもズリ出る、中にも內匠頭樣はお顔の色が眞ツさほと相成り、膝に突いてお出で遊ばした扇子でポン〳〵〳〵お椽側をお叩きになり……『唯七狂氣致したか、無禮であらう』とお叫びになつたが何しろワイ〳〵のよどめきで其聲は徹底致しませぬ、此間に唯七に於ては一角を……『ヤッ』と云ふと肩に擔ぎ、一トり振るよと見えたるがお庭の隅を目掛けてポッと投げ付ける、一角も去る者投げられながら蜻蛉返りをして中ぶにヨッコリ立つたが、相憎側に立つてゐた石燈籠の嵩に足を酷く打ち付け一且立つには立つたが再び其處へ座り込んで終つた、此有樣に上下を擧げ主客を振つて一同夢の樣此時唯七は悠然として塵打拂ひ、お椽側の先まで來たつて土下座を突き申し上げます……『申し上げます』と云ふからには唯七は此亂暴の次第に就いて何か云はうとしたに相違ない、內匠頭樣は御明君であらつしやるが、疳癖の强いお方、斯くの如き突發の事件にお驚き遊ばし唯七の言葉はお耳に入りませぬ……『不埒なり唯七、所柄を辨へざるか此處は御本家のお上屋敷、の霞ケ關のお庭先、安藝守樣の御前であるぞ、か丶る亂暴は狂氣の沙汰、最早許すところでない、手打に致す覺悟しろ』青い顔に血がさつと差して來た、忽ち滿面に朱を濺いだるが如く、おかはせを以てお立上りに相成りました、誰だつて此場合怒らずには居られませぬ、諸士一同は何うなることかと手に汗を握る、前には安兵衛一角の立會で手に汗を握つたが、度々汗を握らせられたら定めしシャボンの必要が生じたらう……どよめいた聲を鎭め、森閑として一同の眼は內匠頭と唯七の上に移る、時に安藝守樣……『アイヤ內匠殿待たれい』見受くるところ唯七狂氣をしてゐるとは存せられぬ是には何ぞ仔細があらう其仔細を糾明した上でも手打ちは遲かるまい』……『如何にも』……『無禮は許し難くとも仔細を尋ねざれば唯七も本意なく思はん、これ唯七如何なる譯にて予の目通りにて斯樣な不埒を働いたるぞ、包まず申して見い』……『ハッ、お尋ねなくとも申上げずば叶ひませぬ、其仔細は淸水一角殿は御指南番、堀部安兵衛殿は高田の馬場の勇士、今日雌雄を決しまするは我等に取つて一期の大事』……『ウム』



ラヂオ

仙臺　JOHK
……十一日（日曜）……

△午前九時A氣象通報
△九時十分九時三十分A榮養料理（數の子の酢味噌和へ）榮養研究所
△九時三十分、十時、（子[illegible]の作り方）テキスト一六頁 小林茂男
△十時、十一時A修養講座（大和民族の修養）今泉宗介
△十一時、十一時四十分B講演（社會不安と人心）高原操
△正午A時報、氣象通報 今日午後の番組豫告、告知事項
△午後○時三十分A全國ニユース
△○時四十分、三時三十分A長唄大會 一、操三番叟 二、梅の榮 三、鶴亀 四、松の翁 五、高砂舟前 六、浦島 七、靱猿
△三時四十分A氣象通報
△四時、六時A角力中繼―（東京大角力春場所）『四日目』國技館より中繼
△六時、六時三十分A（子供の時間）管絃樂と合唱 東京ラヂオオーケストラ JOA―唱歌隊 管絃樂 行進曲『樂しき狩』合唱 イ、旅愁 ロ、歌劇『魔神の射手』より ハ、歌劇『ヘンゼルとグレーテル』より 管絃樂 間奏曲 合唱、つむぎ唄―
△六時三十分未定
△七時A全國ニユース（官廳ニユースを含む）ニユース、氣象通報、告知事項、番組豫告
△七時二十五分、八時三十分A浪花節（赤垣源藏の禁酒）東家樂燕
△八時三十分、九時A俚謠（追分節）金森傳七郎外五人
△九時、九時三十八分A連續講談（笹野權三郎）『第四席』大島伯鶴
△九時四十分A時報、全國ニユース、氣象通報、番組豫告、告知事項

夜間診療
胃腸　内科　十二指腸虫病　專門　内科部
梅毒　淋病　皮膚病　婦人病　專門　外科部
松村胃腸性病科醫院
（平南町電話一〇一七番）

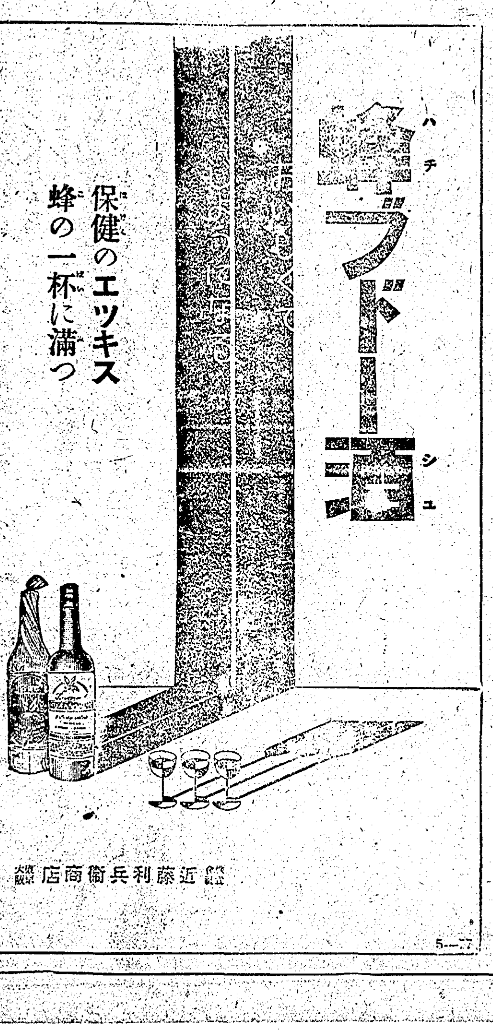
新年愛讀者慰安劇會
皆々樣御待兼ノ久々ニテ……
東西大歌舞伎
大內巡業部
當ル一月十二日ヨリ當地聚樂館ニ於テ開演仕候間何卒舊倍之御引立之程を伏て御願申候
尚愛讀者ニ限リ特等優待券ヲ進呈シマス
後援
吉田新聞店
磐城通信社
東京毎夕新聞平支局
東京朝日新聞平專賣所
至誠堂新聞店
平町
聚樂館

平町田町
高久病院
電話五一三番
內科 小兒科
外科 花柳病科
耳鼻咽喉科
レントゲン科
醫學士 高久忠
新潟醫學士 赤羽清
藥劑士 佐竹菊雄

度量衡計量器
吸入用酸素
酸素吸入器
関内藥局
電話四〇番

吉田眼科病院
平町紺屋町

時計 貴金屬 眼鏡
修繕料半額値下斷行
親切叮嚀迅速
秋山時計店
有聲座前



蜂ブドー酒
保健のエッキス
蜂の一杯に滿つ
近藤利兵衛商店
5-77

學生外套特賣
酷寒・强雨ニモ耐へ生地
型・仕立百・パーセントの
黒ラシヤ外套特價提供
中學用（極上）8圓50錢より
小學用（同）5圓50錢より
全部頭巾付
あかや洋服店
平二　電203

生花教授
池ノ坊流
生花を懇切丁寧に御教授いたします、お遊びがてら御出で下さい。
平町四丁目和泉屋旅館
須藤まつの

嚴冬征服の王者
◎ストーブハ
フクロク・ストーブ
ヲ御選定下さい
一、最モ安イ石炭デ最モ良ク燃エルストーブハフクロクノ右ニ出ヅルモノハアリマセン。
二、石炭商ノ立場ヨリ各種ノストーブヲ嚴密試驗ノ結果始メテ理想的フクロク・ストーブヲ見出シマシタ
◉御希望ノ御方ヘカタログヲ持參シテ御説明申上マス何卒御下命ノ程ヲ
福島縣總代理店
平停車場
阿部石炭商店
電話一三七番

春□□春

不景氣とは言ひ乍ら 此頃の陽氣さ加減

案外多い新年宴會に

連夜絃歌のさんざめき

いくら何でも年が明けたらと當て込んだ宴會が昭和六年の旭光麗かに照りはえても一向それらしい氣勢が無く料理屋の女將が罪もない猫に當りがけ、すれば藝妓屋の女將はやけに煙管を叩く。傍ではら〳〵する藝妓の方でも白粉燒けの額に深い皺を刻み込んで徒らに火鉢の吸ひ殼を埋めたり掘つたり新田町界隈の空氣も頓に陽氣な春にあるまじき沈滯振りを見せて居たが矢張り春は春で追がはちがつたもの。この兩三日來の陽氣さ加減よ

忘年會と二度分

内郷村側を招いで

磐炭幹部の徹底

一昨八日夕方の五時から内郷館で開かれた磐城炭礦の宴會は村議其他公職者を招いで主客合計七十餘名、菅原所長水野部長以下幹部總出動の大盤振る舞ひでこの日大バズで平から運ばれた美形十二名が大に酒間を斡旋し本春に於ける宴會のトップを切つた。而もその崩れが長驅一番自動車を飛ばして新田町に繰り込み忘年會の分迄併せて徹底したとある

小學校長の 入學考査協議

來月第一校で

縣では來るべき中等校の入學考査に對する小學校の方針其他を協議するため縣下四ヶ所に小學校長並實業補習學校長會を開くが濱三郡の分は來月五六の兩日平第一小學校内に於て開催する

七福會の粹士連

谷口樓上の一大歡樂

…出席七拾餘名の盛況…

宴會は南方より。前夜磐村縱の爲に先鞭を附せられた平町では昨九日午後六時から谷口に於ける七十七銀行を中心とした『七福會』の集りが新年宴會のはしり。集る面々之亦七十餘名、千葉辯護士の挨拶について山田七七支店長所感を述べ新田町藝妓屋全部から一人宛選り拔きの美形二十名を良き程に配置しここに三一年を祝福する獻酬に入り酒三行各自取つて置きの隱し藝などに近來減多に見られぬ一大歡樂境を現出し置酒歡談爆笑また爆笑、雨しめやかなる早春の夜の更くるを知らず九時に至つて蹌踉蹣跚家路についたとは春ならではの目出度さである

醲友會連中

末廣では

ご商賣柄生一本の美酒に陶醉す

同じ夜の五時から末廣で開かれた白馬の雪の松本德一氏を會長とする醲友會の宴會は來賓石川司稅官其他を加へて二十餘名ご商賣柄、藏出しの生一本を良き程に溫め差當り金に不自由の無い連中丈け本紙一面の美人詩にある樣な綺麗處をずらりと竝べ大にやに下つたは之亦目出度い圖ではあつた

内郷役場連

同夜大貞にて

この日三時大貞でも村會議員學務委員等を招いた内郷役場主催の會で大さんざめき

平警察署員

けふ住吉屋

十日午後二時から管内警官の出署日をトし住吉屋本店で平警察署の新年宴會消防幹部其他が加はつて大賑ひ

時計商組

同午後五時から平町三丁目大谷武雄氏が主宰する時計商組合の宴會が松本樓で

入山自治會

明夕山形屋で

明十一日は湯本の山形屋に於て入山自治會幹部數十名の一團同町花の觀測

柳界總動員

町村長懇親

十四日谷口樓

十四日は午後三時から谷口で石城町村會數十名の宴會

平町商友會　十一日午後五時から平町谷口樓に開催

お持ち込み

歡迎と改めよ

某消息通は語る

げに春なれや。世は擧げて不況の風浴々と吹き捲くるとは云ひ乍ら前記の如く數多い宴會のあるものを、これを最初から大人しく碎けて『お持ち込み歡迎』と出てゐたならもつともつと有つたであらうものを、而も今の處なら强ち先に立たぬ後の後悔ではない、今にして料理屋の所謂幹部なるもの蓋し反省の餘地なしとは云はれぬ。云々某宴會消息通

借り手が殖えて 面喰ふ同潤會

可成希望に副ひ度いと

財源捻出に腐心

平町同潤會では過般來町内貧困者救濟の爲め三圓乃至五圓程度の小額資本金を無利子で貸與しつゝある旨既報の通りであるが人前を繕つてゐるせいか割合に借入希望者少なく六日迄の申込者僅々二名に過ぎなかつたが昨今漸く增加し始め六日以降今日迄の契約者十三名を尙外に七名の申込あるとの事で今後此の狀勢を維持すれば多くもあらぬ同會の資金では不足を告げるは必定で係員は目下財源捻出の考慮中であるが町豫算其他緊縮一方の昨今俄に良い工風もつかず大に惱んでゐるが過般平鐵道俱樂部主催慈善音樂會寄附に依る七十餘圓を差し當り一時融通し出來るだけ多人數を救濟する方針で盡力してゐる

不漁！安値！

七濱の苦惱

一昨年から二割減

濱三郡各漁村に於ける昨年度漁獲高は一昨年に比し約二割以上の減少を示し特有の秋刀漁、鰯の如きは潮流の關係で殊に甚だしい不漁であつたばかりか漁獲物が極めて割安と來てゐるので大部分の漁主は何れも欠損をまぬかれ難き狀勢にあり勢ひ漁船漁具等の修繕、改造等の如きもなるべく之れを見合すと云ふ風で其間利益を得たのは少ないが豐間の大敷網漁業は比較的成績良く二十日迄同海岸を引上げる筈であると

養蠶代議員

當選者發表

舊臘中行つた郡養蠶同業組合方部駐在代議員の選擧の結果は今十日左の如く發表された

△高久藥谷義長△江名作山源作△豐間志賀重右エ門△大浦岡田市太郎△赤井草野態太郎△永戸箕輪高松國太△鹿島志賀直哉△渡邊根本儀一△三坂永山久助△川部芳賀義虎△四倉植田不治郎△磐崎酒井嘉藏△平窪矢吹昇平△玉川駒木根忠三△山田木田菊次郎△植田太平田市野佐川劉五郎△上遠野吉△神谷木村要次郎△入遠田辰雄△草野鈴木長次△飯野水山菊治　以上

濕地を利用して 鯉の養殖を計劃

仁井田漁業組合で

縣に補助を申請

大浦村仁井田濱漁業組合では同村及び須賀保安林三十町歩のうち濕地三段四畝五歩を借りうけ養漁地を設置し鯉十五萬尾の孵化養殖場をこしたいから相當の縣補助を交附されたいと九日地元漁業組合長から小柳知事に申請した

裁縫講習會

澤渡校で開催

澤渡村小學校では東京方面より裁縫教師二名を招じ昨八日より三ヶ月間補習女生徒裁縫講習會を同校小學校で開催する事となつたと

磐崎少年消防

磐崎村小學校少年消防隊發會式は六日午後九時から同校小學校で擧行したと

小川夜學開始

上下

小川村では同村青少年の爲同村小學校で明十一日より毎夜午後七時より九時迄向ふ三月間開催する

情婦諸共

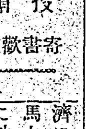
惡代書就縛

昨日福島署に

上遠野大字上遠野字本町司法代書人上遠野喜一郎(五〇)は昨年十月中同村渡邊某から田地抵當に農工銀行平支店から四千圓借受けの書類製作を依賴されたのを奇貨とし文書僞造十一月十四日三千五百圓を同行から騙取逃走かねて馴染を重ねてゐた平町稻荷町飲食店林屋方抱え酌婦佐藤うめよ(六)を身受けし何れかへ行衛を晦ましたので所轄植田署では本縣刑事課に報告搜査中の處栃木、宮城、秋田、長野、青森、岩手方面に姿を現はしてゐた處十二月中旬頃山形縣赤湯溫泉から渡邊に千圓を送金殘金は暫くまつてくれとの手紙あつたので縣刑事課では右各縣に手配方を通牒逮捕に努めてゐた結果八日朝岩手縣千厩驛より宇都宮驛までの切符を買へ

喜一郎、うめよに似たのが乘車した旨同縣刑事課より本縣刑事課に電話報告あつたので同課の大松崎警部補吉田刑事部長が福島驛着上り午後五時四十分の列車に乘り込み搜査せる結果右兩名が三等列車内にうつくまつてゐるのを發見難なく逮捕福島署に張致一應取調の上身柄を九日植田署に引渡した

投書歡迎



農民諸君よ！

◇年改たまつて嵐の樣な不景氣の風は深刻と云ふよりもむしろ慘酷と云ふのが本當だ、昭和五年わが經濟界の不況は實に未曾有の大不景氣を作りわが社會一般の人達がその生活にさい脅かされつゝあるではないか

◇分けても農民生活の困憊に至つては實に甚だしくこの窮狀を本當に知るものはわれ等農民自身でなければならぬ、しかし政府は種々の方法を講じこれが救濟に馬力をかけて居るその馬力が果して何の程度まで に効果があるか

◇最早乾き切つた吾農村民の急場を癒すに他山の火事を見てゐる樣な手緩い事では何もならぬ『却つて見たゞけ苦痛を增すのではないか』それで俺達自分の困つてゐる事他人の世話になるのを待つ樣な氣持ちでは何時まで待つても吾等農民生活の安定は望まれない

◇それで俺達は自分の力で自分の仲間の生きることの對策に協力一致生存の改善に當ろうではないか只モク〳〵として何時までも社會の侮蔑と嘲笑に甘んじ居る時でない如何何ほ俺達百姓が一人々々では微力なりとても是れが生存協同の力が現はれたならそれこそ俺達百姓にかなふものは恐らくあるまい

◇吾が縣下の農民諸君よ吾等生存の確保と生活の安定を希ふなら『正義精神の共鳴を信條とし』て一日も早く吾等農民の結束と農村更生に向つて邁進しやうではないか

（村更生會發頭人投）

不合理な恩給

◇恩給法の改正は、我國刻下急務中の急務たることは一人の異論もない、されば在職年數とか受給年齡の如き面倒くさい大改正はしばらく後廻しとし、差當り應急對策として同法中いちじるしく不合理不都合なる點につき一部改正を加へ漸進的に完璧なる恩給法大改正にいたらんことを望む

1、現行法の恩給權は六年以上の懲役に處せらるるにあらざれば喪失せず、卽ちたとひ懲役三、五年の重刑に處せられたとしても、役等はなほ恩給を失はぬといふ次第、これは一年以上の懲役に改むる必要がある

2、恩給金額に制限なくいが性質上先づ最高三千圓と制限するを相當とす

3、受給者にして所得年額一萬圓以上を有する間は、恩給の支給を停止することにして何等不可なし

4、扶助料つきの寡婦結婚するも形式的なる屆を爲さざる限り扶助料を給するは意義をなさぬこれは事實上結婚したるときを以つて支給を廢すべきである

5、受給者は永久代人―(多くは高利貸)によつて受領してゐる者が少くない、肝腎の本人の手にちつとも入らぬので、中には本人死亡せるに引き續き受領せる實例もあつた。何とか取締規定をおくべきである

（舊城趾痛感生）

石城のトラ退治

壯丁兒童を通じて

成績比較的良好

郡下のトラホーム患者は昨年度壯丁檢診者一萬三千三百五十名中百八十五名一昨年が一萬二千五百五十名中百六十三名で大差なく兒童は昨年度檢診二萬五千三百二十九名の内四百五名一昨年は二萬二千九百二十五名中四百九十名で成績良好であるが更らに平町の分は昨年の壯丁百八十名中十四名約七分七厘一昨年が百四十七名中二十五名一割七分兒童昨年が三千七百七名中百六十二名四分で一昨年が三千五百二十名中百八十名五分で昭和元年以來ほとんど同率である

消防講習會

平町の日取は

來廿三日から

縣消防協會では過般施行したる『消防デー』により防火思想普及の効果百パーセントであつたので亦々今回農閑期を利用し縣下の全消防組員中より學術技能優秀なる者を撰拔し縣下四ヶ所で消防講習會を開催することになつたが平町では來二十三日からである

店員募集

高等小學校卒業程度

東京市日本橋區通油町二内外各種糸物商

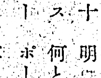
藤掛商店採用

希望者磐城新聞社宛履歷書送付あれ面會は通知す

念佛修業者

木賃で陀佛

神谷村向鎌田木賃宿止宿中の長野縣南安曇郡梓村大字花見自稱念佛修業齋藤敬吾(四〇)は中風の爲昨八日午後十時頃死亡したので平町役場で一先づ假埋葬とし身許引取方を本籍の遺族に打電したと



赤井嵐

一から十迄スポーツの世の中、そこで例の三丁目の○さんが考へたのが『こいつ一番藝者の寒詣り競技をやつて景氣立て直しの祈願を凝めよう……』てな寸法▲『まつたくだわ。三一年式文明『判の標準は何と云つてもスポーツとこう來なくちやネ、やりませうよ』さ許り一膝にぢり出て贊成の急先鋒が三島家の春子▲場所日時は追つて發表する相だが何せチヨ〳〵そつちのけの富勇九貫八百匁どころの小光などが晒しの肌着一枚で『六根清淨』を唱へ乍らお城山へ馳け上る處は近來珍中の珍たるを失ふまい▲と九日の晩谷口で催された七福會出席の連中與齒三枚から相好を崩して喜ぶまい事か。

平町人事

△出生

南町六五東京府下豐多摩郡淀橋町角筈八五三吉田哲五郎二女陽子

禰宜町四三宮城縣加美郡賀美石村米泉落合三片平長志二女三代子

△死亡

長橋町四九石川郡石川町北町三四酒井己之吉(七六)

明日の吉凶

舊暦十一月廿二日　新暦一月十一日

▲一白の人　輕擧を戒め努力を惜まざれば成功を見る日▲二黑の人　何事にも手堅く一歩一歩と進むが安全の日▲三碧の人　輕進を愼しみ空想に耽らず常業を勵むべし▲四綠の人　依賴心を去り己が力を以て〃らず進むに吉▲五黃の人　無理の行動は失敗を招く基自重漸進すべし▲六白の人　表てに現れざる苦勞の多き日神佛詣など吉▲七赤の人　一波去れば一浪複追ひ來る焦れば破れの本▲八白の人　目上と隔意を生じ易き日兎角平和が勝なり▲九紫の人　明聲の助けあり目上の引立もある幸運の日

廣告

上田外科醫院
院長　上田耕作
平町南町電一二九

目下大流行の
ベビーカメラ
一金六拾錢也
附屬品付
平町一丁目
森下商店

内科、小兒科
花柳病科
入院應需
藤沼醫院
平町紺屋町
電話平長五〇七番

美佐男御召ご
優秀銘仙陳列特賣
三井呉服店

專門　一般内科
内科何デモ診療ハ致シマス
呼吸器病バカリデハアリマセン
川井内科診療所
平町南町六五
電話一八一番
醫學士　川井重之
女醫　川井安子

新マツダ斯瓦入
電球三割値下
十五ワツト・二十五ワツト　三十錢
四十ワツト・六十ワツト　三十五錢
百ワツト　六十五錢
一個デモ御電話ガアレバ早速御屆ケイタシマス
是非御用命ヲ願マス
特約店
大谷時計病院
電球部
電話十九番

外科
内臟外科
整形外科
外科一般
醫學士　松永憲一
平新川町十九
木村病院
◇産婦人科院長從前通り診療

貸地
小名濱商事株式會社
平出張所
電話六〇三番
五四一番